

コミュニティバスのルート・ダイヤ改正に向けた検討事項（案）

参 考 資 料

1 「きよす あしがるバス」への主な意見一覧

○：今後の対応を検討 △：対応可否について検討 ×：対応しない

意見分類	意見・要望 No	意見・要望者	ルート	意見内容（課題）	今後の対応	対応策（案）
運行経路	1	市民	オレンジ	・尾関医院にバス停を設置してほしい	○	・道路幅員が狭くバスの進入が難しいほか、枇杷島橋架け替え工事等で渋滞が懸念されるため、対応を検討(p.3(3)参照)
	2	市民	グリーン	・特別養護老人ホームが立地する廻間3丁目付近にバス停を設置してほしい	○	・廻間3丁目付近を通る運行経路を検討(p.3(2)【案2】参照)
	3	第4回交通会議 加藤副会長	共通	・利用が少ないバス停や他ルートに代替可能と思われる経路などを改善できれば、少しシンプルになり改正のポイントになるのではないかと	○	・オレンジ：市役所を経由しない運行経路を検討(p.2参照) ・グリーン：桃栄跨線橋の開通に伴い、運行経路を変更(p.2参照) ・今後運行経路の見直しにあわせて、バス停の廃止や位置変更を検討⇒道路網上、必然的に通らざるを得ないバス停については廃止しない
	4	利用者ニーズ調査	ブルー	・逆回りルートがほしい（一部、往復運行の意見もあり）	○	・現状で逆回りルートを導入する場合、従来ルートと逆回りルートを交互に運行することとなり、従来ルートが減便になるため、目的地までの到着時間（待ち時間＋乗車時間）の大幅な改善は難しい ・片回り循環で運行時間が長い対策としての短縮経路を検討
	5	利用者ニーズ調査	グリーン	・須ヶ口駅～新清洲駅～ヨシヅヤ清洲店間では、時間帯によって積み残しのリスクがある	○	・積み残し対策として、バスを1台増やした場合の運行内容を検討し、便数も確保(p.3(2)参照)
	6	第4回交通会議 上井委員、多田委員	共通	・今後の免許返納者など公共交通利用者の増加を見据え、市内におけるタクシーのあり方も含めて検討してほしい	○	・あしがるバスが運行していない地域においては、乗合タクシー導入による補完を検討(p.3(3)参照)
ダイヤ 接続	7	利用者ニーズ調査、 市民アンケート調査	共通	・他のバスや電車との乗継を良くしてほしい （市外への移動手段を確保してほしい の意見もあり）	○	・今後運行経路の見直しにあわせて、他ルートとの接続性を優先的に高めつつ、鉄道との接続も改善できるよう検討
利用環境	8	利用者ニーズ調査	共通	・バス停に屋根やイスを設置してほしい	×	・対応可能な箇所は全て対応済みの認識でいる
	9	第4回交通会議 上井委員	共通	・市民より「バス停の環境改善」に関する意見があり、危険箇所を即座に見直す必要があるのではないかと	△	・バス停の設置については様々な課題があるため、状況を確認のうえ対応する
	10	利用者ニーズ調査	共通	・便数を増やしてほしい	×	・バスの増車を要するため、すべてのルートで対応することは困難
	11	利用者ニーズ調査	共通	・定時通りにバスが来てほしい	△	・渋滞等によりバスが遅延する場合があります、担当課を通じて道路環境の改善を図る
利用促進	12	利用者ニーズ調査	共通	・回数券や定期券があると良い	×	・利用促進に向けて、現在1乗車100円のところ一日乗車券を200円で販売しており、当日の利用回数に応じて活用いただきたい
	13	第4回交通会議 山田委員	共通	・免許返納がしたくても手続きの仕方が分からないという市民もあり、PRしてほしい	○	・免許返納の手続きは警察が担っており、連携して周知拡大に努めたい
	14	第4回交通会議 加藤副会長	共通	・田原市では、商業施設と連携して公共交通の利用を促進させる事業を推進しており、市役所内でも組織横断的に連携し、公共交通の利用促進を図ってはどうか	○	・本市では公共交通の事例はないが、健康増進に関してお得なクーポンを発行したことがあり、他都市の事例も参考にしつつ、公共交通の利用促進に向けて検討したい

今回の主な協議事項：今後の運行経路の見直しの方向性を検討

今後見直しの内容に応じて、バス停の設置位置やダイヤ接続などを検討

2 「きよす あしがるバス」の課題に対する対応策（案）

（1）全体の主な経路変更

ブルールート

- ・片回り循環で運行時間が長い対策としての短縮経路を検討

グリーンルート

- ・ 桃栄跨線橋の開通に伴い、運行経路を変更…①
- ⇒ 運行経路の変更に伴い、「下外町」「西堀江」バス停を移設
- ・ 積み残し対策として、バスを1台増した場合の運行内容を検討…p3（2）参照
- ⇒ 案1：同一路線上の運行
- ⇒ 案2：運行エリアを2つに分割した運行

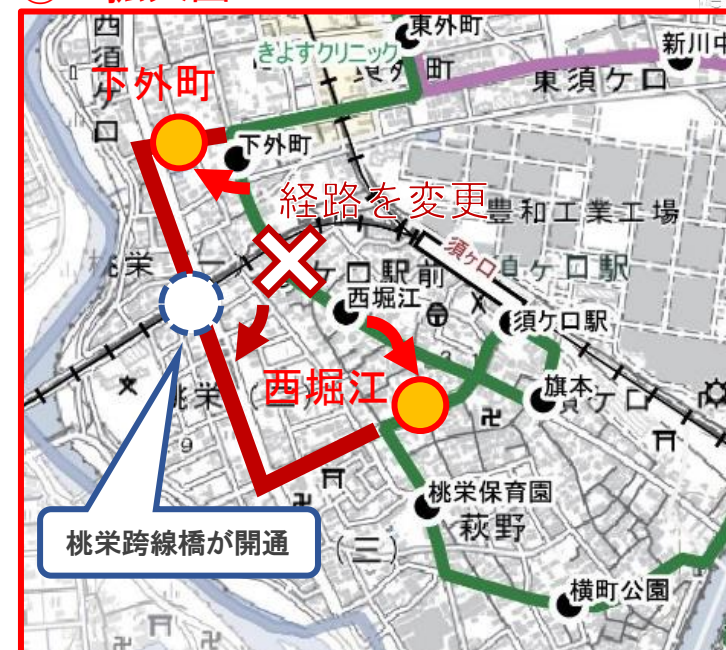
サクラルート

- ・ 4地区を跨る広域的な経路であり、経路の変更による利用者離れのリスクが懸念されるため、今回は変更しない

オレンジルート

- ・ 市役所を経由しない運行経路を検討…②
- ⇒ 枇杷島駅でサクラルートと乗換
- ⇒ 尾張星の宮駅周辺から枇杷島駅までの所要時間の短縮によるアクセス性向上

①：拡大図



②：拡大図



(2) グリーンルート：バスの増車及び経路変更

- ・グリーンルートは積み残しが懸念されていることから、バスを1台増やし（1台→2台）、次に示す2案の運行内容を検討。

案1：同一路線上の運行

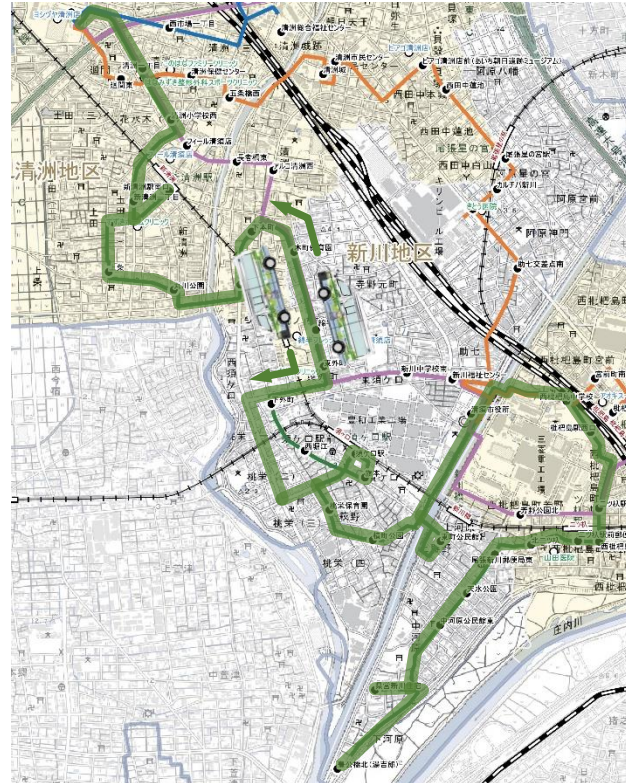
- ・（1）で変更した路線を2台で運行。

案2：運行エリアを2つに分割した運行

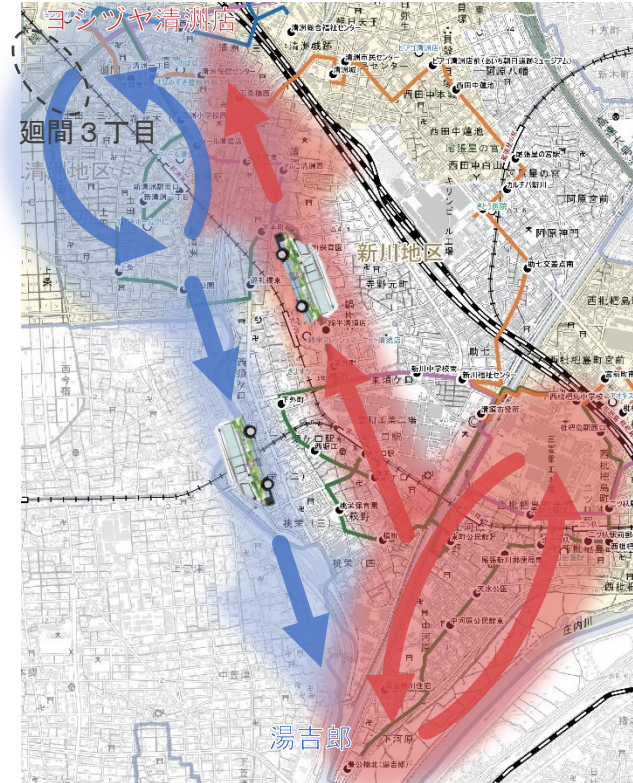
- ・運行エリアを分割し、ヨシツヤ周辺を細かく経由して湯吉郎に直通、湯吉郎周辺を細かく経由してヨシツヤに直通する2つの運行経路を設定。

※令和2年11月に実施した利用者ニーズ調査の結果、豊公橋北・県営新川住宅からヨシツヤ清洲店、ヨシツヤ清洲店・新清洲駅周辺から豊公橋北（湯吉郎）といった長い距離を乗り通している利用が見られた

【案1：同一路線上の運行】



【案2：運行エリアの分割（イメージ）】



【対応を実施する上での課題】

- ・バス増車に係る費用など財源の確保
- ・運行事業者との調整（運転手の確保）
- ・バス停の設置位置の検討（特に清洲地区）

(3) 乗合タクシーの導入検討

- ・あしがるバスが運行していない地域においては、乗合タクシー導入による補完を検討。
※乗合タクシー導入の事例として、「i-バスミニ（一宮市）」や「コミュニティバス接続便（稲沢市）」などがある

【乗合タクシー導入のメリット・デメリット】

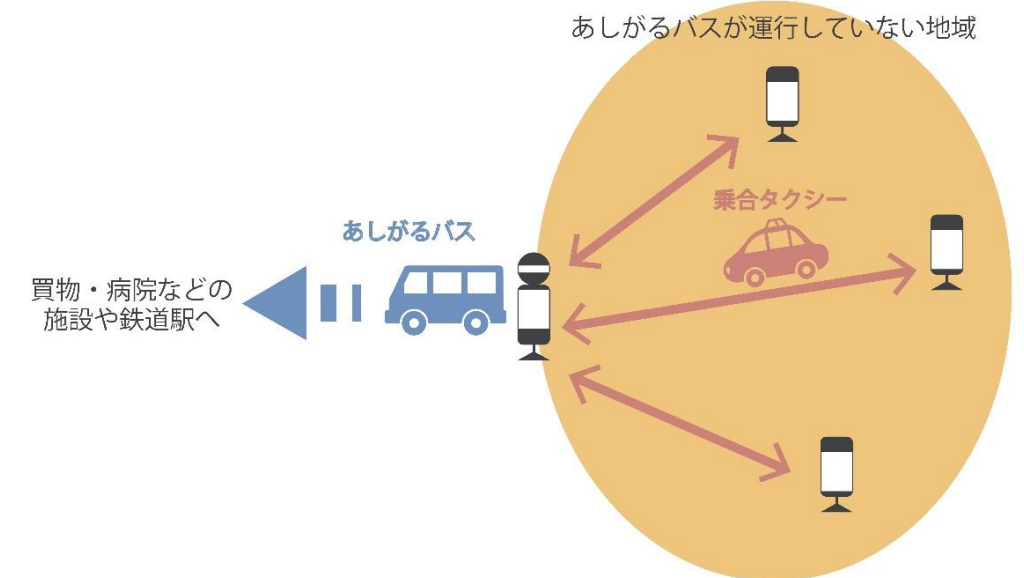
■メリット

- ・交通空白地域の解消（市民の移動手段が確保される）
- ・あしがるバスとの接続による利便性向上
- ・小型車両のため、道幅が狭い道路でも運行が可能
- ・事前予約制のため、必要最小限の運行による経費削減

■デメリット

- ・運行頻度が高いほど、運行経費の負担大
- ・乗合タクシーの車両や運転手が必要
- ・小型車両のため、積み残しリスクの懸念
- ・予約する手間がかかる

【乗合タクシー導入のイメージ（案）】



【対応を実施する上での課題】

- ・運行経費の試算及び財源の確保
- ・運行事業者との調整（事業者への意向確認、車両調整など）
- ・停留所の設置位置の検討（地域の意向確認）
- ・予約システム導入の検討